

# 校報 まきがね

恵那西中学校だより 第5号

令和2年 8月3日(月) 発行



## 「あなただからこそ 咲かすことのできる花がある」

～ 『心の書画家』伊藤 一樹 様より、作品をご寄贈いただきました ～

校長 熊崎 健一

この度、岩村町在住で恵那市観光大使にも任命されている書画家の伊藤 一樹 様より、市内全中学校に作品をご寄贈いただきました。7月17日には、伊藤様と後援会会長・副会長様にご来校いただき、贈呈式を行いました。キャンバスには、「コロナ禍にあっても元気に生徒に過ごしてもらいたい」との思いを込めて「ひまわり」をイメージした画が描かれ、「あなただからこそ 咲かすことのできる花がある」の書が添えられています。伊藤様の作風である角のない文字とほのぼのとした画を拝見した瞬間、何とも言えない温かな気持ちになりました。生徒を代表して生徒会執行部に受け取ってもらいました。伊藤様からは、ご自身の経験や経歴も含めてお話を伺いました。贈呈ののち、各メンバーからお礼を申し上げました。作品から受ける印象や伊藤様からの説明について、自身の経験や感想を交え見事に語ってくれました。執行部6人の話に重なりや偏りはなく、それぞれの見方や考え方・感性から生き生きと語る姿にもまた感心させられました。最後に私からもお礼をと思っていましたが、6名の心のこもった言葉の後に話すことも憚られ、ご遠慮させていただきました。作品は、生徒の目に毎日触れる所がよいと考え、生徒玄関にしました。保護者の皆様もご来校の際は、ぜひご覧ください。“ほっこりした気分”になること間違いなしです！



## 「今、一番怖いと思うことは何ですか？」

～ コロナ禍だからこそ、冷静さと思いやりの心を！ ～

4連休明けの朝に少し時間をいただき、全校放送で生徒にこんな言葉を投げかけました。

「秋口頃からとされていた新型コロナの第2波が始まった？」というようなニュースが毎日のように取りざたされています。県内の高校・大学でもクラスターが発生し、東濃各市においても感染者が確認されています。ひとたび感染者が確認されれば、その濃厚接触者として多くの関係者がPCR検査を受検することとなり、その中で「陽性」が確認されれば、その輪はさらに広がっていきます。目に見えない脅威がひたひたと近づいている感もあります。毎日、不安が尽きることはありません。

私は、「一番怖いのは、人だと思う。」と話しました。生徒は毎日の健康チェックにマスク着用・手洗い等、教職員も自身の健康管理はもちろん、放課後の丁寧な消毒作業を怠りません。社会全体でこれほどまでに対策しても、感染は広がっているのです。増して身近に迫りくる脅威を実感した時、人の不安は一層強くなります。誰も不安から解消されたい思いから、正確な情報を得ようとします。「誰が?」「どこで?」「どうやって?」「関係者は?」というように。人によって、場合によっては、それが根拠の不確かな憶測や噂話として発信され、いわれのない差別につながることにのみりかねません。だから生徒には、「自分や身近な人が、心無い噂話や誹謗中傷の的にされてしまったら…」ということに想像力を働かせ、どんな事態になっても冷静に判断・適切に行動したり、思いやりの心をもって他者に接したりして欲しいということを強く願い、メッセージを送りました。